

病害虫発生予察注意報第 9 号

佐賀県

作物名：タマネギ
病害虫名：べと病

1) 注意報の内容

発生地域：県内全域
発生量：平年より多い

2) 注意報発令の根拠

- (1)平成 28 年 2 月 1 日及び 3 日に実施した調査における越冬罹病株の発生圃場率は 26.9%、発生株率は 0.05%であり、前回調査(1 月 18 日、0%、0%)に比べ増加し、多発した前年(平成 27 年 2 月 4 日調査：発生圃場率 25.0%、発生株率 0.03%)と同様の発生である(写真 1、2、表 1)。
- (2)発生は主に生育が早いマルチ栽培タマネギであるが、一部の露地栽培タマネギにおいても認められる。
- (3)近年の本病の多発生により、圃場内の本病原菌の密度が高まっていると推定されることから、今後、越冬罹病株の発生が増加すると考えられ、3 月以降、伝染が拡大し被害を生じる恐れがある。



写真 1 マルチ被覆タマネギに発生した
べと病越冬罹病株



写真 2 タマネギ葉身上に形成された
分生孢子

注) 写真 1 は平成 28 年 2 月 1 日撮影、写真 2 は、平成 28 年 2 月 3 日撮影

表1 現地タマネギ調査圃場におけるべと病越年罹病株の発生状況（各圃場2,000株調査）

調査種類	地区	圃場番号	マルチ有無	越年罹病株の発生株率（％）				
				12月18日	1月5日	1月12日	1月18日	2月1日～3日
定期巡回調査	A地区	1	有	-注2)	0.05	0	0	0.50
		2	有	-	0	0.05	0	0.35
		3	有	-	0	0	0	0.05
		4	有	0	0	0	0	0
		5	有	0	0	0	0	0
		6	有	0	0	0	0	0
		7	無	-	0	0	0	0.20
		8	無	0	0	0	0	0
	B地区	1	有	0	0	0	0	0
		2	有	0	0	0	0	0
		3	無	0	0	0	0	0
		4	無	0	0	0	0	0
	C地区	1	有	0	0	0	0	0
		2	無	0	0	0	0	0
		3	無	0	0	0	0	0
		4	無	0	0	0	0	0
D地区	1	有	0	0	0	0	0	
	2	有	0	0	0	0	0	
	3	有	0	0	0	0	0	
	4	有	0	0	0	0	0	
臨時調査	注1) A地区	1	有	-	-	-	-	0
		B地区	2	有	-	-	-	-
	B地区	3	有	-	-	-	-	0.05
		4	有	-	-	-	-	0.05
	D地区	1	有	-	-	-	-	0
		2	有	-	-	-	-	0
平均発生株率				0	0.003	0.003	0	0.05

注1) 2月3日に追加して調査した。 注2) 調査せず。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)各圃場ごとに発生状況を観察し、**越年罹病株を抜き取って圃場外へ持ち出して埋める**か、ビニル袋等で密閉するなどして確実に処分する。(表2参照)
- (2)定期的な予防散布に加え、**3月上旬頃(二次感染が始まる直前)からの薬剤散布を徹底する。**また、薬剤散布後においても、曇雨天が続くと新たな病斑を形成することがあるので、このような場合は追加防除を実施する。(表2参照)
- (3)薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- (4)トンネル栽培や早生タマネギで早期に発生したべと病が、周辺のタマネギの感染源となるため、マルチ除去後の一斉防除等に地域全体で取り組む。
- (5)薬剤防除に当たっては、**農薬使用基準(収穫前日数等)を遵守する。**

表2 タマネギべと病の特徴と防除のポイント(平成27年11月11日付け対策資料より)

時期	感染(肉眼では気づかない)や発病(肉眼で分かる)など	防除対策
秋期 (苗床)	<ul style="list-style-type: none"> 土の中に生存する菌が、タマネギに伝染する。 苗床で発病することがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 土壌消毒の実施 育苗期の薬剤防除
12月～1月頃 (定植後)	<ul style="list-style-type: none"> 土の中に生存する菌が、タマネギに伝染する。 低温のために、冬の間感染株が発病することは少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 本圃初期の薬剤防除
1月下旬 ～3月頃	<p>・<u>越年罹病株が、1月下旬～3月に連続して発生する。</u></p> <p>症状は、葉が黄化・色あせ、湾曲し、草丈が小さくなる。株全体にピロード状の灰色～灰褐色の分生子を形成する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>越年罹病株を早期に抜き取る。</u>
3月 以降	<p>・<u>3月上旬頃(平均気温10℃以上で降雨が続く時期)から越年罹病株の周囲の株に二次伝染する。</u></p> <p>・4月中旬～5月中旬にさらに発生が増加する。</p> <p>発生株は、葉に淡黄緑色の楕円形の病斑ができ、やがて枯死する場合もある。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>二次伝染前からの防除を徹底する。</u> ・引き続き、発生初期の防除に重点をおきながら、発生状況に応じた追加防除を行う。 ・発生が増加しやすい球肥大初期の防除を徹底する。 ・気温15℃前後で曇雨天が続くと多発生しやすいので、このような場合は特に防除を徹底する。